

# 図書館だより

1993. 10. 10

第 15 卷 3 号

通巻 127 号

Bulletin of the Hokkai Gakuen University Library

## 読書の楽しさ

高久 眞一

ダンテの『神曲』をと言ったら、余り聞いたことのない何処かの国の作曲家の「新曲」かと誤解され、その集まりでは他の人たちの迷惑になると困るので大きな声を出して唱うのは控えて欲しいと、教室を貸す係りの人に言われたのは6年前のこと。30名近い一般市民の方々と月2回、土曜日の午後集まっては、この古典の輪読会を始めたのであった。

14世紀イタリアの叙事詩という、時空を遙かに越えたこの作品は、その内容がさらに現世を越えたあの世のことで、地獄・煉獄・天国をめぐるダンテの旅物語だ。あらゆる意味で、今のこの日常生活とは対極の世界で、現代日本人の中に確立されていると見える価値体系では最下位のものである。

この作品を一般の人々から遠ざけていたのは、失礼ながら、岩波文庫のその翻訳ではないかと思う。その難解な文語訳を読んで頭痛を覚えない人は稀だろう。翻訳文の研究者か文語文の愛好家なら別だが。数ページ辿っては投げ出したという経験をもつ人は多いはず。古典とは読まずに祭り上げるものとされる代表格であったのだ。

ところが、この10年ばかり、『神曲』の現代散文訳が出て、次第に日本でも読者層を広げている。昔の詩の現代散文訳とは邪道ではないかと人は言うかもしれない。しかし、ダンテが書いたのはラテン語ではなく、当時の一般の人々を読者として想定しての、トスカナ地方の方言で書いたのであった。つまり、人々を遠ざけるような高踏のラテン語ではなく、庶民が話している言葉を基本にしての叙事詩であったのだ。してみると、現代日本語での散文訳というのは、ダンテの意にかなう

と言えるだろう。

その輪読会に集まった人たちは主として家庭の主婦たちと定年退職の男性たち。他に教師あり、同人誌に創作をのせている人あり、ローマの歴史が何よりも好きだという人あり、声楽家ありと、実にさまざまだが、700年昔の、全く「浮世ばなれ」をした古典の面白さに魂を奪われた点では完全に一致していた。

集まる度毎に区切りよく、100数十行から成る一歌宛を丹念に読む。ヨーロッパの歴史、ギリシア・ローマ神話、カトリック神学、聖書等を調べ、さらに翻訳書の註釈を参照しながら読み進み、作品中の主人公ダンテの思いに自らの思いを重ねては一喜一憂する。時にはグスターヴ・ドレの同書の挿絵集をひろげては同感したり、あるいは違和感を覚えたりする。

輪読会が終わってからのお茶の会がまた楽しい。ダンテをきっかけにして、日頃内面にあたためてあることを出し合って、談論風発の二時間ばかりを過ごす。一刻千金とはこういう時のことを指すのだ。

100歌全部読みあげるのに4年ばかりかかったが、集まった人たちには全く頭が下がる。読み終えたから務め先で地位があがる訳でも、資格になる訳でもない。ましてや、大学の単位になる訳でもない。他方、出欠をとることも、宿題や試験の類は一切無し。すべてが自律的で内発的で、ただただ純粹にその古典の面白さに惹かれるというだけで読み終えたのだ。平均年齢50歳ぐらいの小父さん小母さんたちのグループよ、賛えられてあれ!

(たかく しんいち 人文学部教授)

# 「カール・ルイスと会って」

竹田 憲 司

テキサス州ヒューストンに行ってきた。

今年3月のことである。

「スプリント学会」に出席するのが主たる目的であった。

シュタルモクテキ……などとエラソーに言っているのを聞いた時は、その目的を素直に信じない方がよろしい。たいていの場合、他に下心があるものだ。

我々スプリント学会会員のセンセー達も又例外ではない。

ヒューストン大学には有名なサンタモニカ・トラックチームがあって、ほら、あのカール・ルイスやリロイ・バレルなどがここに所属しているのである。

そして、このセミナーの最終日には、彼らを始め世界のトップ選手を題材にして、彼らのコーチであるトム・テレットのクリニックがあるのだ!

となれば、ルイス君やバレル君と親しくお話を交し、ついでにサインなんかをせびってしまうふうな。とまあ、実に卓越した感性豊かな下心があったワケ。

それはそれとして、このクリニック、「わっ!」と声をたてるほど凄かった。

どーでもいいことだけど、ボクはこのセミナーでチェアマンをおおせつかった。ところが、

通訳をはさんでの仕事なのに進行がうまく行かなくて「こりゃー評価会でタタかれるか」と心が重かった。

で、このクリニックが始まると、現在、従来の常識をブチ破る短距離走法が話題になっているだけに、センセー達すっかりそのコーチングに目も心も奪われてしまった。

でもって、帰国するまでこのクリニックが話題の中心になってボクミスなど、とくに忘れていてくれたのデス。

さて余談はさておき(全て余談ではあるが)、肝心のカール・ルイスのことである。

ルイスは午後2時迄は彼の店で仕事をしている。Tシャツやスエット・シャツなどの通信販売をするれっきとしたビジネスマンなのだ。

ひと仕事終えてからトラックに現われる。

彼の練習は確かに量的には少ない。

しかしその密度は濃い。強度が高いのだ。

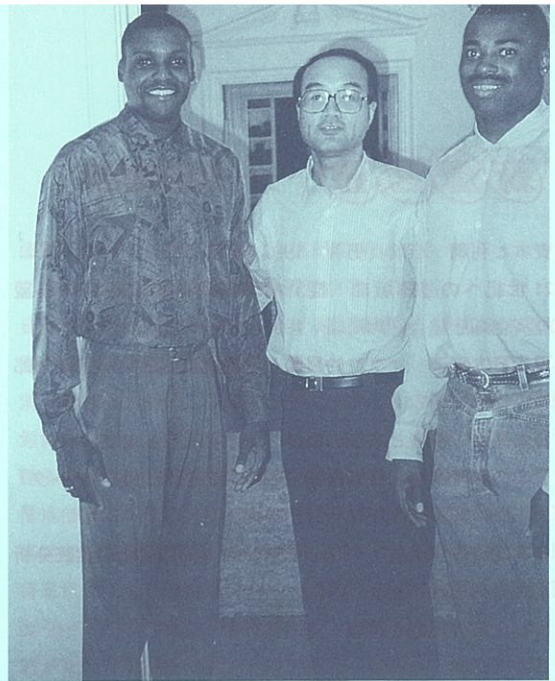
例えば、400 m、300 m、200 m を走る練習。この時の400 m のスピードは46秒~47秒でいってしまうのだ。ちなみに北海道記録は46秒84で6年間も破られていないのだから、その速さが想像できよう。

こういった練習は集中力なんですね。グラグラ長時間練習するドコカの国の選手とはワケが違う。

## A・V所蔵リスト

[NHK] 人形劇三国史	1-7	日本放送協会
[NHK] テレビスポーツ教室	1-6	日本放送協会
[NHK] 鶴になった男—釧路湿原・タンチョウふれあい日記		日本放送協会
[NHK] 海のシルクロード	1-12	日本放送協会
[NHK] ポリショイ・バレエ全集	3 vols	NHK エンタープライズ
大系日本歴史と芸能—音と映像と文学による大自然のファンタジア—	1-12	網野善彦・ポリドール
New Current Comprehensive Books.41	3 vols	渡辺幸俊
New Current Comprehensive Books.46	3 vols	渡辺幸俊
New Current Screen English. 1		Nci
New Current Screen English Series. 5		Nci
Switch on;The Maysterry of Valley.		
Fonge;English Language Teaching by.Video		伊丹レイ子
Living in Washington		R.Istami
ラボCDライブラリー	10 vols	ラボ教育センター
講座ティームティーチング —その理論と実践—	1-12	講座ティームティーチング 刊行委員会

(左から)カール・ルイス、著者、  
リロイ・バレル



テレッツコーチも言っていた「日本の選手は練習のしすぎだ」と。「それにコーチが教えすぎだ」ともつけ加えた。

ん、それに、この時の練習を見ていて、正直言ってオシッコがもれそうになる位感動した。なにしろ、リロイ・バレル、マイク・マーシュ、フロイト・ハードってヤツらが並んで走るのだから……。まるでオリンピックを見ているようだった。

8月の世界陸上でルイスは世界の王座からすべり落ちた。ここぞとばかりマスコミは「ワガママなルイスはもう売れない」と書きたてた。

そーいえば日本陸連のエライさん達も「ルイスには手を焼く」とブツクサ言っていたわけ。

ボクにはその資格がないことを承知の上で、こうした批判には与する訳にいかない、ってな感想がある。

確かに今回のセミナーでも、ルイスってどんな人間なのだ? とコワゴワ近づいたものだが、我々の結論は「人間的に素晴らしい」であった。

どこの馬の骨か分らぬ我々コーチにもキッチリ挨拶をしてくれる。一生懸命話を聞いてくれる。紳士だ。これは他の先生から聞いた話だが、若い選手がルイスに教えてくれと行っても教えない。テレッツコーチの許可をもらってこいと言う。あれほどの選手でも勝手に教えることはしない。

日本ではOBと称するヤツが監督の許可もなく勝手に選手をいじくり回すことがあるが、ダメだなアレは。

コーチにはちゃんとした指導過程がある。それをブチこわすようなことを、ルイスは決してしな

いのである。

とまあ、威張ることもない、親切なカール・ルイスというイメージを持って帰って来た。しかしあくまでも「外からみた姿」ではあるが。

そうそう、ヒューストン最後の夜のことだった。ホテルにカール・ルイスがやって来た。我々が先に注文しておいたTシャツ類をドーンと持って現われたのである。

ルイス自らが商売しに来たのだ。従業員にまかせればいいのに、彼は会計係である。ルイスの兄さんが「20\$のTシャツ5枚」と叫ぶと彼は真剣な顔して電卓をたたく。ソッと覗くと、20+20+20+……。

あー、見なけりゃーよかったな、これだけは。(たけだ けんじ 教養部教授)

## 工学部所蔵分

DECUS シンポジウム講演集  
DECUS テクニカルセミナー  
ビギナーズ UNIX 入門編・応用編  
オークランドのナチュラル・リゾート  
THE NEWS NHK ニュースハイライト S 28~63  
[NHK] ルーブル美術館  
[NHK] 名曲アルバム

第4回~ DEC ユーザー協会

3 vols DEC ユーザー協会

2 vols 井上尚司他

JICC 総合開発局

36 vols 日本放送協会

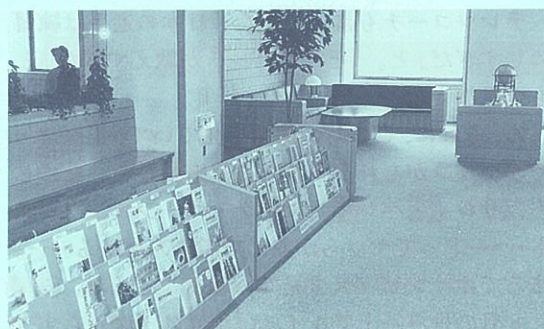
1-13 日本放送協会

1-24 日本放送協会

## 新着図書

## 経済学部

- 資本と利潤 石橋貞男著 1992
- 21世紀への基本戦略 経済構造調整と日本経済の展望  
経済企画庁総合計画局編 1987
- 現代日本経済 マクロ的展開と国際経済関係 小宮隆太郎  
著 1988
- 日本経済 蓄積と成長の軌跡 宇沢弘文編 1989
- 日本の経済構造 長期推移・将来展望・国際比較 データ・  
ブック 経済企画庁総合計画局編 1989
- 日本経済のマクロ・パフォーマンス 構造変化の実証分析  
高林喜久生著 1988
- 日本企業の組織と情報 青木昌彦著 1989
- 日本の企業 今井賢一、小宮隆太郎編 1989
- 変革日本型経営 グローバル時代の生き残り戦略 松田修  
一著 1992
- 日本的クオリティ・マネジメント 経営・品質・統計の総  
合化 西賢祐 [ほか] 著 1993
- セグメント管理会計 製品戦略・市場戦略のための利益計  
画の策定 伊藤進著 1992
- 英文財務諸表の実務 日米会計基準の比較と作成方法 井  
上斎藤英和監査法人編 1992
- 会計政策の現在 今福愛志著 1992
- 日本の株価変動 ボラティリティ変動モデルによる分析  
刈屋武昭 [ほか] 編著 1989
- 世界市場と国際収支 海保幸世著 1993
- 新しい産業社会の条件 競争・協調・産業民主主義 猪木  
武徳著 1993
- 国際課税の基礎知識 川田剛著 1992



2階ブラウジングコーナー

- 現代税法解釈 手続法・実体法・争訟法における課題と考  
察 岸田貞夫著 1992
- 福祉を哲学する 飯田精一著 1992
- 統計的推論とその応用 木村和範著 1992
- 家族がガンにかかったとき 笹子三津留著 1992
- エネルゲイア 人類にとって「エネルギー」とは 近藤駿  
介著 1992
- 製造業に未来はあるか 日本のモノ作りが変わる 野口恒  
著 1992
- 自動車企業のコスト・マネジメント 原価企画・原価改善・  
原価計算 門田安弘著 1991
- 北海道開発レポート'92 力強い北海道をめざして 北海  
道開発庁編 1992
- 農業資本主義 その論理と歴史 河西勝 [著] 1992
- 脱スーパーで突っ走るニチイ・マイカルグループのすべて  
鈴木裕著 1992
- 日本農業存亡の危機と展望 井野隆一著 1992
- 日本の流通 三輪芳明、西村清彦編 1991

## 気楽に読もう — ①

### 『ボクはこんなことを考えている』

大槻ケンヂ (メディアファクトリー)

この本は、その名のとおりに、大槻ケンヂさんが考えている、いろいろおんなことが書かれているエッセイです。大槻さんは、実にたくさんの趣味があり、とっても知識も広く、そのうえいろんな経験もして、読んでみると、ほのぼのと笑わせてくれたり、「そこまで書くか、この正直者め！」などと驚いたり、「なるほどー！」とか「そのとおりで！」と思ったり、難しい言葉が使われていたり、

いつもとってもいい刺激を与えてくれます。普通の人ならきっと、そんなに深くまでは考えたり、分析したりはしないだろうなあ、と思えるようなことを、まっすぐにみつめている大槻さんは、とってもいい人で、こんな人ばかりだったら、世の中平和だろうなあ、と私は思います。でも、変なことをしてつかまったり、異常な趣味に走ったりはしないかと、心配している今日この頃でもあります。みなさんも、この本を読んで、今まで知らなかった世界のことに、どんどん興味を持ってみてください。私は一切関知しません。 (M)



2階コピー  
コーナー

中国人との付き合い方 黒川欣映著 1992  
 中国のきり拓く道 日本より見る 武田清子著 1992  
 歴史としての鄧小平時代 天見慧著 1992  
 現代の法と政治 立正大学法学部創立十周年記念論集 立正大学法学部編 1992  
 法律情報のオンライン検索 田島裕著 1992  
 立法裁量論 戸松秀典著 1993  
 ドイツ公法の理論 その今日的意義 小林孝輔編 1992  
 行政手続法の研究 海老沢俊郎著 1992  
 最近のドイツ不当利得法の概観 松坂佐一著 1992  
 公開会社と閉鎖会社の法理 酒巻俊雄先生還暦記念 石山卓磨、上村達男編 1992  
 傷害保険契約の法理 中西正明著 1992  
 裁判官と学者の間 伊藤正己著 1993  
 国際売買法 曾野和明、山手正史著 1993  
 小山昇著作集 第8巻 小山昇著 1992  
 民事訴訟法改正問題 木川統一郎著 1992

法学部 新着図書

国際人権保障の実施措置 久保田洋著 1993  
 EC 行政構造と政策過程 福田耕治著 1992  
 自動車損害賠償責任保険における因果関係 保険給付の立場から 武田昌之著 1992  
 消費者私法の原理 民法と消費者契約 長尾治助著 1992  
 労働委員会命令と司法審査 山本吉人著 1992  
 甦る中国海軍 平松茂雄著 1991  
 借地借家法の改正・土地基本法 日本土地法学会編 1990  
 高齢者住居・登記制度・新地価税 日本土地法学会編 1991  
 将来世代に公正な地球環境を—国際法、共同遺産、世代間衡平— E.B. ワイス著 1992  
 アメリカの環境保護法 畠山武道著 1992  
 国際化時代の流通機構 宮澤健一著 1991  
 自動車事故の損害賠償と保険 加藤一郎、木宮高彦編 1991  
 成田治安法・いま憲法が危ない 三里塚農民の抵抗と最高裁大法廷判決 北野弘久、一瀬敬一郎編 1992  
 北京飯店旧館にて 中藪英助著 1992  
 民主主義の政治学 山本佐門著 1992  
 遺言・公証 倉田卓次著 1992  
 紛争と裁判の法社会学 棚瀬孝雄著 1992  
 企業提携の時代 日本企業によるM&Aの世界 後藤光男著 1992  
 生殖医学と人類遺伝学 刑法によって制限すべきか H. ギュンター R. ケラー著 1991  
 先端医療と刑法 A. エーザー著 1990

気楽に読もう ②

『モモ』 ミヒャエル・エンデ作 大島かおり訳 (岩波書店)  
 ミヒャエル・エンデと聞いて、映画「ネバーエンディングストーリー」の原作者ということを出す方も多いと思いますが、この物語も彼の作品の一つです。  
 主人公は、「モモ」という女の子です。彼女が、人間をあやつり時間を盗んで生きている「灰色の男たち」から、時間を取り返してくれるという物語です。

今の私たちもこの物語の人間のように、「時間に追われる」生活をしています。そして、「時間がない」とか「暇がない」とか口に出したりしています。そんなときにこの物語を読んで、モモと一緒に「時間」について考えてみてはどうでしょうか。  
 表紙の奥や挿絵もミヒャエル・エンデがかいています。



(F)

## 新着図書 — 人文学部

映画で歩くパリ 鈴木布美子著 1993  
 ハプスブルク物語 池内紀、南川三治郎著 1993  
 ホームズのヴィクトリア朝ロンドン案内 小林司、東山あかね著 1993  
 すぐ書ける英文手紙の書き方と模範文例集 清水雄次郎著 1992  
 これでかんべき英文記事の読み方 ザ・ニックエイ・ウィークリー編 1992  
 英会話 99 語のきまり文句 まるごと覚える 立木惠著 1988  
 英語で話そう Hokkaido 海島久、テイビット・キャンベル共著 1990  
 たんぼのお酒 レイ・ブラッドベリ著 1971  
 幻の馬幻の騎手 キャサリン・アン・ポーター著 1980  
 万葉集と中国古典の比較研究 孫久富著 1991  
 蕪村事典 松尾靖秋 [ほか] 編 1990  
 源氏物語 現代京ことば訳 1-3 [紫式部著] 1991  
 北風の匂い 朝倉賢著 1991  
 イギリスは愉快だ 林望著 1991  
 豊平川 一英語教師の追憶と懸念 福村虎治郎著 1992  
 アイヌ・フォークロア ニコライ・ネフスキー著 1991  
 イースト・イズ・イースト T. コラゲッサン・ボイル著 1992  
 幽霊たち ポール・オスター著 1989  
 英国の友人 アニータ・ブルックナー著 1990  
 クリスマスの思い出 トルーマン・カポーティ著 1990  
 マンボ・キングス、愛のうたを歌う 上・下 オスカー・



— 101 —  
M 4 書庫

イフェロス著 1992  
 大学生アン 上・下 L.M. モンゴメリー著 1991  
 アヴォンリーのアン 上・下 L.M. モンゴメリー著 1990  
 メルトダウン 日米同時崩壊 ピーター・タスカ著 1991  
 だれがコロンブスを発見したか バックウォルド傑作選 1  
 アート・バックフォード著 1980  
 そしてだれも笑わなくなった バックウォルド傑作選 2  
 アート・バックウォルド著 1980  
 嘘だといってよ、ピリー バックウォルド傑作選 3  
 アート・バックウォルド著 1982  
 ゴッドファザーは手持ち無沙汰 バックウォルド傑作選 4  
 アート・バックウォルド著 1984  
 コンピューターが故障です バックウォルド傑作選 5  
 アート・バックウォルド著 1990  
 ツア・コンダクターの英会話 大沢栄美 1990  
 フランス語を読むために 80 のキー・ポイント 南館英孝、石野好一著 1990

### 気楽に読もう — ③

『恋愛論』 橋本 治 (講談社文庫)  
 このタイトルを見て、皆さんは誰の名前を思い浮かべますか？ スタンダール？ それとも……柴門ふみ？ 私が「恋愛論」の著者としていちばんに挙げたい人は橋本治、この人をおいて他にはいません。橋本治といえば超口語体の文章を書く人として有名で、本書もご多分に洩れず、なのですが、「恋愛論」というだけあって内容は少々メンドクサイ——仕方ありませんよね、「恋愛」ってあ

る意味では永遠のテーマですから。それに本の中で橋本さんも言っています。「愛というものは一般論で語れるけれども、しかし恋愛というものは一般論では語れない」と。文体と内容のギャップもなかなか楽しめますが、それはさておき。橋本さんはそのメンドクサイ「恋愛論」なるものをしっかり語りきってしまいました。それだけでもこの本は一読の価値あり、ということになるのですが、それだけではありません。「恋愛論」を語るためのベースとなっているものは、橋本さんの初恋の話です。が、その初恋の相手が男の子だったからと



4階書庫

- 公園と緑地 札幌市教育委員会文化資料室編 1993  
 南海の王国琉球の世紀 東アジアの中の琉球 陳舜臣 [ほか] 著 1993  
 日本外交の軌跡 細谷千博著 1993  
 量子力学概論 権藤靖夫著 1991  
 基礎デジタル制御 美多勉 [ほか] 共著 1988  
 交通計画 森地茂、山形耕一編著 1993  
 住環境の都市形態 P. バヌレ他著、佐藤方俊訳 1993  
 建築の生産とシステム 最終講義 内田祥哉著 1993  
 拙先生絵日記 山本拙郎著 1993  
 トリンキュロ 思考としての家具 大橋晃朗著 1993  
 ロンドン縦断 ナッシュとゾーンが造った街 長谷川堯著 1993  
 トニー・ガルニエ 吉田綱市著 1993  
 電力系統工学 関根泰次 [ほか] 共著 1979  
 通信伝送工学 星子幸男著 1978  
 音響振動工学 西山静男 [ほか] 共著 1979

## 工学部

## 新着図書

- モデルに基づくロボットマニピュレータの制御 Chae H. An [ほか] 著 1991  
 ファジィ応用ハンドブック 九州産学官協力会議編 1991  
 デジタル制御の基礎 相良節夫 [ほか] 共著 1992  
 制御システム技術の理論と応用 広井和男編 1992  
 PID制御 須田信英 [ほか] 著 1992  
 C言語による制御実習入門 横山直隆著 1992  
 光・量子エレクトロニクス 藤岡知夫 [ほか] 共著 1991  
 電子工学概論 奥田孝美著 1983  
 半導体デバイス工学 石原宏著 1990  
 マイクロ波・光工学 宮内一洋 [ほか] 共著 1989  
 光・量子エレクトロニクス 藤岡知夫 [ほか] 共著 1991  
 光エレクトロニクス 上林利生、貴堂靖昭共著 1992  
 だれにもわかるデジタル回路 天野英晴、武藤佳恭共著 1991  
 論評建築界を考える 橋本喬行著 1992  
 やり直しの英語上達法 矢野安剛著 1992  
 俳句作法入門 藤田湘子著 1993  
 都市と土地の理論 経済学・都市工学・法制論による学際分析 岩田規久男 1992  
 パソコンによるオペレーションズ・リサーチ 杉原敏夫著 1992  
 窓の外は海 大学の将来に向けて 柳井久義著 1991  
 地球を救え ジョナサン・ポリット編 1991  
 都市・空間・建築の根拠をさぐる 空間の存在論へ 都市文化科学研究センター編 1991  
 日本の水車と文化 前田清志著 1992

いって逃げ出したりしないで下さい。「初恋」の一部始終が実に素直に書かれています。素直すぎて、こっちが照れるくらいです（橋本さんも相当照れています）。当時高校生の彼の心理はまさしく「女の子」です。そして「恋愛論」を語る現在の彼の心理も、限りなく女の子に近いスタンスです。女の子になりきった男の子、それが橋本治という人です。ただものではないと思いませんか？  
 この本を読むときには、今までの「常識」は棄ててしまった方がよいようです。女の子の心理の橋本さんも、悟りが加わるとなかなかどうして辛



辣です。「現実に恋愛は存在しない」「恋愛というのはいわゆる「愛」というのとは違い、もっとエゴイスティックで駆け引きのある、戦いのようなもの」だなんて、痛いところを突いてきて厳しい厳しい。——それでもまだ、皆さんは「常識」を持っていられますか？

回想の林達夫 久野収編 1992  
 時間の文化史 時間と空間の文化：1880-1918年／上巻  
 スティーヴン・カーン著 1993  
 奇の日本史 渡来伝説の謎を解く 三谷茉沙夫著 1992  
 相互誤解／ ジャパン・バッシングの起源と深層 長山靖生著 1992  
 バベルの塔 ドイツ民主共和国の思い出 ハンス・マイヤー著 1993  
 不思議の国の特派員 デビッド・パワーズ著 1992  
 浪浪する資本主義 アラン・コック著 1993  
 統合 ECのすべて ポイント早わかり 石川薫編著 1992  
 箸とフォーク 東西文化比較論 川瀬勇著 1992  
 欧米人が沈黙するとき 異文化間のコミュニケーション 直塚玲子著 1980  
 日米コミュニケーション・ギャップ 実例で見る 西田ひろ子著 1989  
 身のまわりの高分子 巨大分子の世界 藤重昇永著 1992  
 楽しい絵地図づくり 村松昭著 1992  
 細胞の生物学 新免輝男著 1993  
 ボルネオの生きものたち 熱帯林にその生活を追って 日高敏隆、石井実編著 1991  
 鳥はなぜ集まる？ 群れの行動生態学 上田恵介著 1990  
 脳科学への挑戦状 心の素材を求めて バグランド著 1990  
 エイズからあなたをまもる本 最新版 北村敬著 1992  
 地下・地下・地下／ 稲田善紀著 1992  
 中国でのビジネス 北京駐在員の夢と記録 渡辺真純著



3階開架書庫

1992  
 チェルノブイリの遺産 ジョレス・メドヴェージェフ [著] 1992  
 松下コンピュータ制覇の戦略 江戸雄介著 1992  
 今夜も映画で眠れない ポーリン・ケイル著 1992  
 中国語で話そう北海道 北海道新聞社編 1992  
 アイヌ語の起源 村山七郎著 1992  
 英語の人間関係学 摩擦を生まない異文化間コミュニケーション術 上地安貞著 1991  
 英語でガイドする Japan／ どんな質問にも困らない 中山幸男著 1990  
 すぐに役立つはじめてのロシア語 佐藤純一著 1991  
 聴いて、話すためのロシア語基本単語 2000 森俊一著 1991  
 海外ミステリ名作 100 選 ポオから P.D. ジェイムズまで H.R.F. キーティング著 1992  
 江戸の笑い 加太こうじ著 1992

気楽に読もう ⑤

『The Cold Moons』

アナグマたちと冷たい月 上・下

クレメント・A (草思社)

イギリスのウェールズ地方にあるシルギンの森は、昔からアナグマたちの住処だった。ところが畜牛に結核が発生したことにより感染源とみなされ、人間たちの残虐な迫害が始まり、安住の地を求め、生き残りをかけ、300匹以上のアナグマの旅が始まる。

(理想の地「エリージア」をめざし、長く苦しい

道のりを力を合わせてのりこえ、ふたたび平和に暮らすという物語なのです。

単純なお話にみえますが、一匹一匹のアナグマの個性を通して、涙・愛・絶望・裏切り・殺りく・等数多くのエピソードが盛りこまれ、あきさせることなく次はなにという期待と興奮で、新天地「エリージア」にたどりつくまでの長い道のりも一気に読むことができます。

勉強の合間の息抜きには、最高の本です。(H)



## 「大江戸えねるぎ一事情」

石川英輔著（講談社）

科学技術のおかげで、現在の我々は非常に便利な生活をしている。しかしその便利さが何かを代償として生まれている事は言うまでもない。現代の便利な生活を維持する為に一体どれ程のエネルギーを必要としているのかを本書で試算している。驚くべき事に夫婦に子供二人の標準的な家庭で一日に石油 40 l、毎分小匙一杯の石油が必要なのである。今の日本の便利な生活はこれだけの膨大なエネルギーを使って成り立っている訳である。

『無から有は生じない』この自然界の根本法則を軸に本書は何かを生み出すエネルギーを江戸時代の社会を例に現代と比較して如何に現代が膨大なエネルギーとそれに見合わない生産をしているかを教えてくれる。物質が豊かになったとしても精神まで豊かになるとは限らない。江戸時代が如何に僅かなエネルギー消費であの時代独特の文化と文明を効率よく維持していたのかがわかると驚かずにいられない。華やかな江戸文化の繊細さは僅かなエネルギーを効率よく使って運営されていた社会だからこそ生まれ得た事や、合理的なエネルギー循環に過去の日本が如何に進歩していたのかがよく解る。江戸時代の生活は大まかな計算だけでも現代の 1% 程度のエネルギー消費で充分であった。勿論比較にならない環境ではあるが人間

の幸福が便利さの程度に比例していると言う証拠は無いし、江戸庶民が不便な生活をしていたとは限らない。我々が不便だったと思うのは単に現代と比較した上での話であり彼らはさらにそれ以前の人々よりは便利な生活をしていた筈なのである。エネルギーの喰い潰しがいつか底をついた時我々がどういふ生き方をすれば良いのかを少しは参考にする事が出来るのではないだろうか。勿論そのままの形で現代が江戸時代の日本の様になれる訳でもないが自然と人間の関わり方という意味では充分お手本に出来る。又、そういったエネルギー問題だけではなく本書では江戸風俗を科学的な手法で教えてくれる点でも非常に面白い読み物でもある。例えば時代劇でおなじみの行灯の明るさが 60 W 電球の 50 分の 1 も無かった明るさだったと知れば江戸時代がどんな生活環境で成り立っていたのかが解って非常に面白いと思いませんか？

（工学部職員 片石充宣）

## 気楽に読もう — ⑥

## 『イギリスは愉快だ』

林 望著（平凡社）

長い間、こういう素敵なエッセイ集を待っていたような気がします。本書で描写されている、イギリスの美しい自然——とりわけ、スコットランドの夏が圧巻です——にすっかり魅せられてしまいました。（思わずメンデルスゾーンの交響曲、『スコットランド』をかけつつ読み返したくなってしまいました）そして、著者がめぐりあったイギリスの人達のエピソードが実にいきいきとしていて、まるで懐かしい人にでも逢ったような気持ち

になってしまいます。お茶会やクリスマスなどのアットホームな雰囲気は、ふつうの観光旅行では味わえないので、憧れもひとしおです。

是非、手に取ってみて下さい。

（法学部 4 年）佐々木 順子



# 読書雑感

## 学生と読書

小野 誠 二

今の大学生は本を読まない、とはよく言われることである。知識、情報を得るのに、他のメディアの圧倒的増大のみられる現在では、それも当然とも言えるし、だから、本は読んで読まなくてもいいのではないかとさえ思う気持ちにもなる。

それでも、本を読んでいるな、読もうと志しているなど感じられる学生に接すると大変嬉しい。

わたしは論理学の講義中、昔読んで心に残っている小説などを持ち出すことがある。

去年、カフカの『変身』に触れたら、二、三週間後、B君という学生が、「こんなに驚きもすれば、最後にどうなるかと興奮して読んだ本ははじめてです。」と「報告」してくれた。

B君は、その後も、よく、読書の感想を語ってくれた。「この頃、推理小説にも興味を持ち、コナン・ドイルのシャーロック・ホームズ物を読んでいます、先生はどう思われますか。」という問いが最後で、論理学の講義は終了した。

大学生時代に読んだなかで、クイーンの『Xの悲劇』『Yの悲劇』『Zの悲劇』、クロフツの『樞』、ポーの『黒猫』『モルグ街の殺人事件』『黄金虫』、江戸川乱歩の『心理試験』、松本清張の『点と線』『零の焦点』『眼の壁』、水上勉の『雁の寺』『飢餓

海峡』などがよかったと言おうと思ったが、なんとなくそのときは控えた。

今年も、同じような学生、二部のK君が現れた。最初の頃の講義時に、ジイドの『法王庁の抜け穴』とカミュの『異邦人』に言及したところ、翌週の講義が済んだあと、まず『法王庁の抜け穴』について、「先生が言われた『無動機の動機』ということがこの本でよくわかりました。」と感想を伝えてくれた。その本をよくも探したものだと思心に至りであった。

今年の春に北大の大学院に進んだG君は、この四年間、主に読書の話をして、しばしばわたしの研究室を訪ねてきた。最初に会ったとき、いきなり「恋愛とはなんですか。」と問われ、眼をパチクリさせた。遠まわしの答ではあったが、『翻訳語成立事情』（柳父章、岩波新書）を読むことをすすめた。「恋愛」は訳語だからである。

G君は、読書の仕方、基本ということをおろそかにしがちなむきがあったので、そのことで何度も話した。たとえば、哲学にかなりの関心がありながら、なんとなく断片的な読み方、理解の仕方を見せるので、桂寿一『哲学概説』、岩崎武雄『西洋哲学史』、波多野精一『西洋哲学史要』、朝永三

### 気楽に読もう ⑦

#### 『クマゲラの森から』

有澤 浩著（朝日新聞社 488頁）

富良野と聞けばワインにラベンダーとしか思い浮かばなかった私ですが、この本を読んで富良野には『富良野の樹海』と呼ばれる面積23,000ヘクタールの広大な自然林があることを知りました。そして、そこには、この本の主人公であるクマゲラが棲んでいることも知りました。クマゲラは、キツキの仲間ですが日本では北海道と東北の森林地帯に生息し、その希少さから、1965年に天然記念

物に指定されたそうです。

著者は40年もの間クマゲラの生態について観察したすべてを、この本に述べたと書いています。というだけあって読んでみるとクマゲラの木を叩く音が聞こえてきそうな気がします。著者のクマゲラに対する愛情が伝わってきて、どうしても富良野の森に行ってみたくなりました。

ゴルフ好きに恨みはあり



# 読書お問答

中川 三子

「読書お問答」第10回「読書お問答」より。中川三子先生に「近世哲学における私の自覚史」、シュベグラー『西洋哲学史』、出隆『哲学以前』、三木清『哲学入門』などを紹介した。最初の二著は一見読み易いようだが、深い研鑽に裏打ちされているし、あとのものは古いものではあるけれども、「魂」が入っていると言ひ、少なくとも、岩崎武夫の『西洋哲学史』だけでも「しっかり」読むように誘ってみた。G君はそのことを実行してみせた。

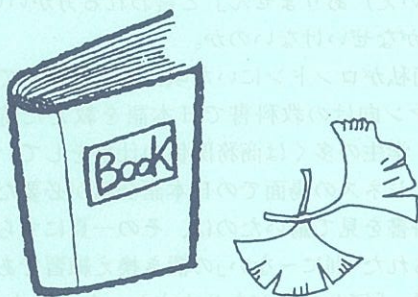
G君は「読書家」、「読書努力家」であった。このG君からは、逆に教わることもあった。「『ブダペスト物語』(栗本慎一郎)に牽かれるものがありましたので読んでみてください。」と、その本を渡され、マイケル・ポラニー(1891-1976)というハンガリーの現代思想家についてはじめて知った。

その後、ポラニーの『人間について』『暗黙知の次元』を読み、考えてみてよい思想家だと納得した。主著の『個人的知識』は、それこそ「しっかり」読んでみようと思心に決めている。

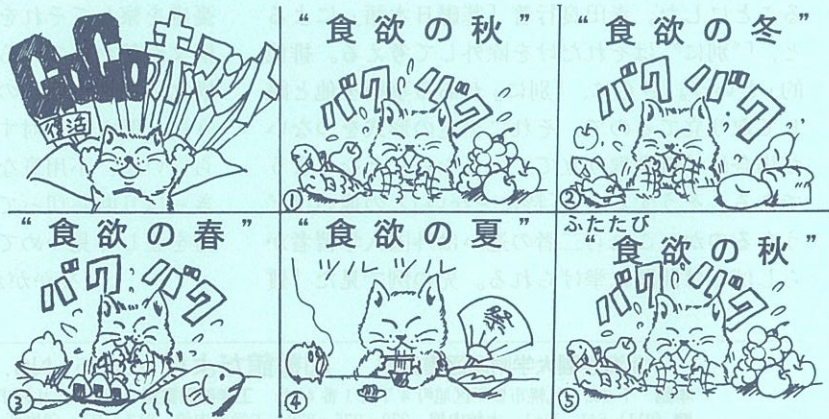
案外に、学生諸君は、本を読んでいるかもしれない。昔の大学生が、本当に、その大多数がたくさんの本を読んだかどうか疑問しいところもあるし、また、昔と今の大学生の数の大幅な違いを考

慮に入れれば、今の大学生は本を読まない、とは簡単に言えないような気がする。読む者はいつの時代でも読んでいるのではあるまいか。

(おの せいじ 教養部教授)



ませんが、ゴルフ場開発もほどほどに、「クマゲラの住家の森林」を守っていかねばなつて真剣に考えてしまったのです。(M)



## — 質問は別にありません —

中 川 かず子

表題にある文は文法的におかしいわけではない。しかし、授業を終えたばかりで興奮がまだ収まらない教師からすると、こんな答えは嬉しくない。それはなぜだろうか。教師は、自分の授業を学生がどれだけ理解して、しかもどのくらい興味を持って聴いたかということに関心がある。だから、授業終了後には学生の反応を聞きたいという気持ちでいっぱいだと思う。それなのに「質問は別にない」とあっさり言われては白けてしまう。単に「(いいえ) ありません」と言われる方がいい。「別に」がなぜいけないのか。

数年前私がロンドンにいた頃、知人の勧めでビジネスマン向けの教科書で日本語を教えた時があった。学生の多くは勤務関係の仕事をしていたので、ビジネスの場面での日本語会話が必要だったので、教科書を見て驚いたのは、その一頁にずらりと並べられた「別に～ない」の置き換え練習であった。まず、「何か予定がありますか」から始まり、「痛い／高い／具合が悪い」等の形容詞を用いた疑問文に答えるようになっていた。ところが、教科書にある語を順に入れ替えていくと、「別に忙しくありません」、「別に悪くありません」、「別に面白くありません」、「別においしくありません」等となり、表面の骨組みは全く同じなのに後の二文のような不快感のある文ができてしまうのである。そこで、辞書で「別に」の意味と用法を調べてみることにした。森田良行著「基礎日本語」によると、「別に」はそれだけを除外して考える。排他的」という。さらに、「別に」がある事柄を他と離して取り立てるので、それに否定の形式をつないだ場合は「特別取り立てては～ない」となるようである。そうすると、「特に～ない」との違いはどのようなのか。これら二者の違いは外国人学習者からしばしば問題に挙げられる。先の例で見た「質

問は別にない」と「別に面白くない」の「別に」は「特に」と置き換え可能である。むしろ、「特に」の方が柔らかい響きを感じられ、どの語彙を使った否定構文でも不快な思いをさせずに済む。部分否定の意味で使うのなら、こちらの方がいい。一方、「別に～ない」は、実際の発話では部分否定というよりも問題の事柄を突き放すように否定する感があり、「全く～ない」に近い意味をもつこともある。先のビジネスマン向けの教科書の練習で要注意と思われたのは、「別に元気でない」、「別によくない」、「別に親切でない」のように肯定的意味合いの語を否定する場合である。このような時は文脈を話し手自身の状況に限定し、他人について「よくない」、「元気でない」などとマイナスに評価する形にしないことである。その逆に、「別に病気でない」、「別に悪くない」、「別に意地悪でない」のような否定的語彙が入る場合は、誰についてとか誰に対して話すといった状況をさほど気にしなくてもよさそうだ。

「別に～ない」が最も自然に聞こえるのは、「忙しいのにすみません」に答えて「(このくらいは)別に忙しくありません」、「痛い(難しい/ほか)ですか」に対して「(この程度では)、別に痛く(難しく/ほか)ありません」、「大変ですね」と言われて「(このくらいは)別に大変ではありません」等の場合だろう。これらに共通するのは、聞き手の心配、憂慮を察してそれを吹き飛ばすのに「別に～ない」構文が使われている点である。否定的語彙とこの構文の相性がいいのはそのためであろう。このように、聞き手に対する思いやりを込めて使うのならいいが、不用意な使用で聞き手の期待や思いをきっぱり断ち切ってしまうのは困る。言葉の使い方を正しく見つめていきたいものである。

(なかがわ かずこ 人文学部教授)